

派遣報告書（報告者；穴見健吾）

大会名	令和6年度 第45回全九州中学生バスケットボール春季選手権大会
開催地	サンアリーナせんだい
日 時	令和7年2月21日（金）～2月23日（日）
担当ゲーム1	A C（熊本県） v s 第一中（佐賀県）
相手審判	CC：中島弘幸 U1：穴見健吾 U2：岡山智樹
Pre-Game Conference	
☐ ベーシックなメカ ☐ プライマリの意識 ☐ 自分が意識していることに積極的に取り組むこと	
Post-Game Conference	
☐ ベーシックなメカの実践ができていた。プライマリのレフェリーが鳴らないときにヘルプとしてのセカンドの意識がクルーとして随所に見られた。 ☐ リードの立ち位置の意識。ポジションアジャストを「もう一歩」をふみ出す。	
担当ゲーム2	A X L S（鹿児島県） v s H Y U G A D ‘ R I S E（長崎県）
相手審判	CC：松田茂治 U1：穴見健吾 U2：田中祐輔
Pre-Game Conference	
☐ プライマリの意識 ☐ チーム分析 ☐ ペイシェントとケイデンスの意識	
Post-Game Conference	
☐ シングルコールが多く、ダブルコールになった際もプライマリレフェリーがしっかりと取り上げていた。 ☐ リードの立ち位置が課題。何を見に行くのかをはっきりさせるとレフェリング技術の向上につながる。	
今大会に参加しての感想など	
今回の九州中学では2試合の割り当てをいただきました。今大会は鹿児島全中のプレ大会として、大会前および大会期間中にJ B A講師を招聘しての研修もおこなわれ、より深く研鑽を積むことができました。ファウルを取り上げることだけが判定力ではなく、笛を入れることがなかったとしても試合中に起こる無数の現象一つ一つを分析し、予測し、考え続けることが必要だと気づかされました。特にプレーの予測に関して、今まで自分が「何となく」で見えていたような部分があったと反省しています。一緒に試合を担当したクルーの方々をはじめ多くの方からアドバイスを頂き、大変ありがたく思っています。 今大会を大きな経験として、これからも研鑽に励むとともに、県内にも還元できるよう取り組んでいきたいと思っています。 最後になりましたが、今回の派遣に際しまして、大分県バスケットボール協会の関係者の皆様をはじめ、職場、家族の理解と応援をいただきました。心よりお礼申し上げます。	